

學院豫算は前年度に比し五萬余円を増額した。これかた  
め基金を參百萬円として百萬円を繰出し、事業の擴大強  
化を圖つた。

3、分課制をとり、労働、農村、調査、事業の四課を  
おき、調査の主眼を労働問題殊に産業の民主化、不かん  
かしく經營の民主化におくこととした。また「労働學校」  
の創設のために調査委員會の設置が計畫された。

4、職員に人材を招いた。殊にソ聯の研究、事業の企  
畫、渉外事務等に專任者をおき、また大阪支所長に新任  
したのである。

### 第五節 解散に關する經過の真相

五〇二

### 第一項 渉外の經過

五〇三

終戦後協會は、その本來の面目に還り、民主的産業  
平和の實現に一切の機能を發揮すべく、着々と準備  
を進めた。しかし客觀的情勢には不安なものがあつた。

1、その一は協會の統合問題である。風説のうち明  
かになつたものは、勞務法制審議會で、労働に關する  
科學的調査を行わしめたために、現存の機關を統合し  
た有力機關を設けて、中央勞務委員會事務局に附屬せし  
めるといふ附帯決議をしたこと、現存の機關中には  
協會を擧げられると傳えられた。

2、G、H、Qの労働問題研究對象として、種々雑多  
な情報下に、協會の性格と業績とが正解されることは